

1月31日 全校朝会（ミート）



好奇心をもとう

おはようございます。

明日から2月になりますね。2月4日は立春で暦の上では春が始まる日です。寒い日が続きますが、日差しは春に向かって日に日に強くなっているように感じませんか。立春の前日は節分と呼ばれています。豆まきをして鬼を外に追い払う行事がありますね。季節の分かれ目は体調を崩しやすいので、悪い物を鬼に例えて追い払う行事となったと言われていました。

日本には昔から色々な行事がありますが、いつからどんな理由で始まったのか調べてみるととても面白いです。また、同じ行事でも地方によって名前もやり方も違うのはどうしてなのか、もっと調べてみたくなります。このように、知らないことや不思議なことに興味をもつ心を好奇心といいます。

赤ちゃんが、回りのものを何でもさわったり口に入れたりしてしまうのは、初めて見るものに好奇心があるからです。お話ができるようになると「あれ何？これ何？なんで？」などと何でも聞きたがるのも好奇心です。学校では「なぜだろう」「調べてみたい」というそれぞれの問題を本で調べたり、実験したりしながら解決する方法を学んでいますね。また、ひとつの問題を解決したら、さらに新しい問題に向かっていくように好奇心もどんどん高まっています。

何千年もかけて、人間が好奇心を持ち続けてきたからこそ、今の私たちの生活があると言えるでしょう。3年生は、ふるさと歴史館で昔の道具や暮らしについて学習していますね。たとえば、洗濯の道具をみてみましょう。昔は、たらいや洗濯板を使って洗濯をしていた時代がありました。水を汲んだり板でこすったりして洗うのですから、たいへんな力仕事です。でも、桃太郎のお話に出てくる「おじいさんは山へ柴刈りに、おばあさんは川へ洗濯に・・・」という言葉から分かるように、もっと昔の時代は、洗濯物を川で手洗いしていたことを考えると、たらいや洗濯板は大発明です。川まで行かなくても、家で洗濯ができるようになりまし、板でこする方が楽に汚れを落とすことができます。でも、それに満足せずに、もっと便利に、もっと快適に、と考えて洗濯機が発明されたのです。つまり、どの道具も、もっとよい物が発明されるまでは、その時代の最先端であったということです。そして、人間がつねに好奇心をもって研究を続けることで、その時代にあった、よりよい道具を生み出してきたということが言えるでしょう。

みなさんが、「なぜだろう」「不思議だなあ」「調べてみたい」とつねに考えることが新しい時代を創っていくことになるのです。今の時代には、一生かかっても読み切れない程の本があります。知りたいと思えば、簡単にどんな情報でも手に入れることができます。大事なことは、知識がたくさんあることではなく、知識を生かすことです。教室にはってある「学ぶ・使う・生かす」をどんな時にも忘れずに、好奇心をもって生活してほしいと思います。好奇心の反対の言葉は無関心です。好奇心のある人と無関心な人と比べたら、どちらが脳を活発に使うでしょうか。みなさんの脳は考えれば考えるほど成長します。自分の脳を育てるのは自分だということも忘れないでください。

今日は、好奇心をもとうというお話でした。